

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 46人 |
| ② 算数 | 46人 |
| ③ 理科 | 46人 |

5 留意事項

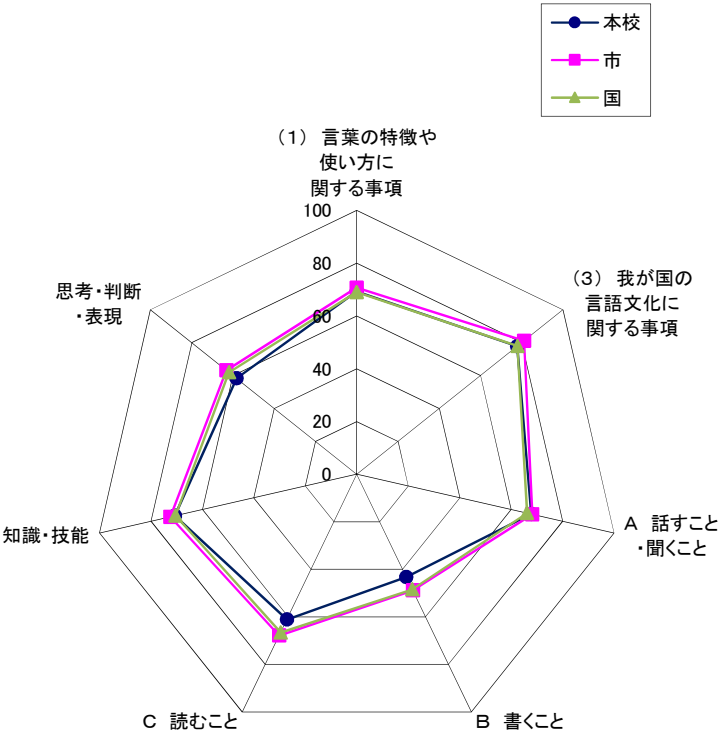
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	69.3	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	77.8	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	67.8	68.2	66.2
	B 書くこと	43.3	48.9	48.5
	C 読むこと	61.1	67.9	66.6
観点	知識・技能	70.7	72.5	70.5
	思考・判断・表現	58.3	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

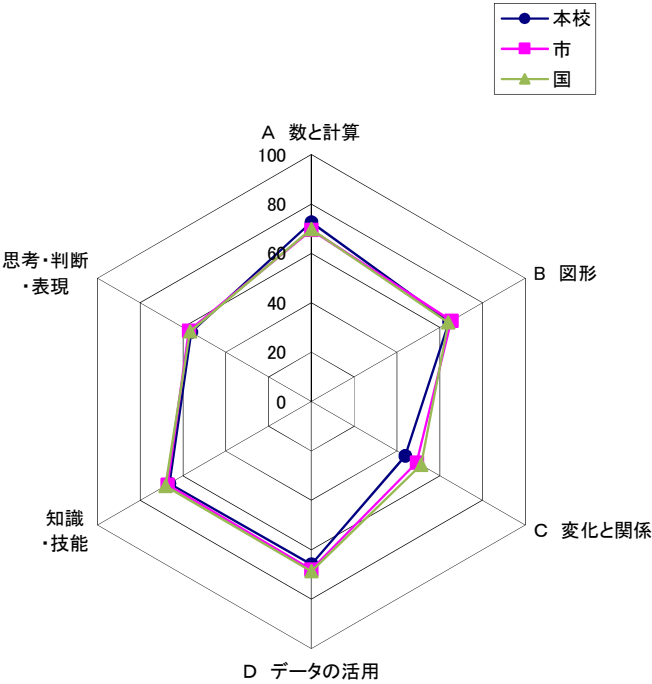
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○話し言葉と書き言葉との違いを理解しているかを問う問題の本校の正答率は88.9%であり、全国、県の平均より約3ポイント高い。 ●言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えているかを問う問題の本校の正答率は55.6%であり、全国の平均より13.2ポイント、県の平均より10.8ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今回正答率の低かった設問二で取り上げられている指導事項は、平成29年告示の学習指導要領で新設させたものである。国語の学習に限らず、話し合い活動では互いの立場や考えを尊重しながらも、自分の考えを伝えたり必要なことを質問したりする力を身に付けていく。同時に、言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気付かせる指導を日常的に行っていく。コロナ禍で話し合い活動が出来ない場面も多かったため、積極的に話し合い活動が行えるよう工夫して指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことの理解を問う問題の本校の正答率は77.8%であり、全国の平均とほぼ同じであったが、県、市の平均より3.2ポイント低い。	・読みやすい文や文章を書くために、点画の書き方や文字の形に注意し、丁寧に書くこと、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことを日頃から意識できるよう、繰り返し指導していく。
A 話すこと・聞くこと	○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えているかを問う問題の本校の正答率は86.7%で全国、県の平均より1.9ポイント高い。 ●互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題の本校の正答率は48.9%で全国の平均より1.2ポイント、県の平均より0.6ポイント高いが、正答率が50%を下回っており、全ての条件を満たして回答することを苦手とする児童が多い。	・話し合ったことをもとに、自分の考えを広げたりまとめたりする活動の充実を図っていく。何について考え、それをどうまとめるのかという条件を満たして書くことを繰り返し学習する時間を設けたり、丁寧に扱ったりすることで理解が深まるようにしていく。
B 書くこと	●書くことの本校の正答率は、43.3%で国や県、市の平均より5ポイント以上低い。 ●特に、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する問題の本校の正答率は51.1%で、全校の平均より8.1ポイント、県の平均より6.5ポイント低い。	・読み手に自分の考えを明確に伝えるために、自分の書いた文章を読み返し、それを整えるという学習を書くことの単元に限らず日々行っていくことで力を付けていきたい。 ・事実と感想、意見を区別して書き、引用の仕方や図表、グラフの使い方など、教材文を丁寧に扱い、理解を深めていくようする。
C 読むこと	○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えているかを問う問題の正答率は73.3%で全国の平均より4.9ポイント、県の平均より6.1ポイント高い。 ●物語から伝わってくることを考え、四角に入る内容を書く記述式の問題に対して、本校の正答率は46.7%で全国、県より21.6ポイント低い。また、無回答率は15.6%と全国より3.4ポイント、県より4.9ポイント低い。	・読書活動の充実を図り、いろいろな物語文に触れるようにしたり、自分が気に入った本について紹介したりする活動を朝の学習や朝の会などで取り入れていく。 ・物語文を読む単元の学習では、場面ごとの描写を丁寧に読み取ることだけでなく、登場人物の相互関係に着目して読んだり、物語の全体像を想像して読んだりすることに重点をおき、指導していくようにする。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	72.6	69.5	69.8
	B 図形	64.4	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	43.9	49.3	51.3
	D データの活用	65.9	68.0	68.7
観点	知識・技能	66.4	67.3	68.2
	思考・判断・表現	56.2	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

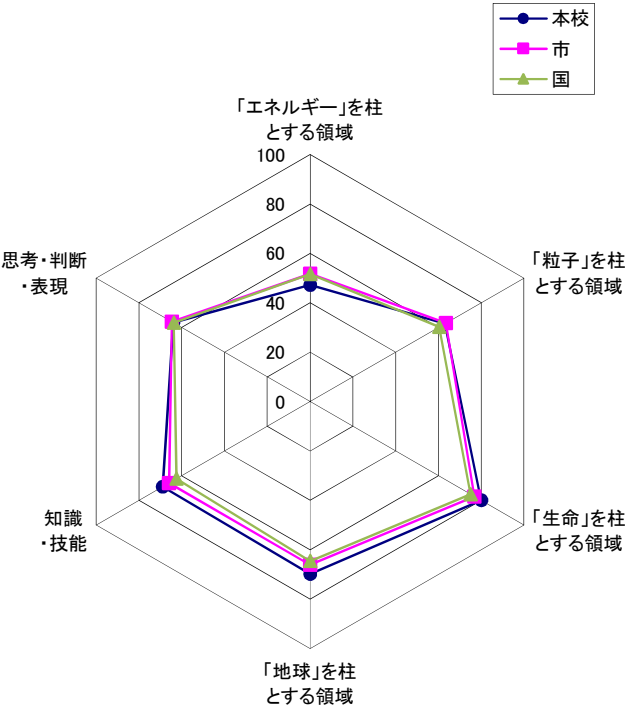
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○数と計算の領域においては、すべての問題で県の正答率と同等、或いは上回っていた。 ○示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題の本校の正答率は82.2%であり、全国の平均より6.2ポイント、県の平均より5.9ポイント高い。 ●示された場面において目的に合った数の処理の仕方を考察する問題では、正しい概数を選べなかったため、県とは同率だが、全国の平均より1.5ポイント低い。	・今後も、上央小算数検定などを中心に、基本的な計算の定着を図っていく。 ・様々な概数の意味を再確認し、概数を効果的に利用できる場面を日常生活の中で考えさせていく。
B 図形	○示されたものを、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題や長方形のプログラムで向かい合う辺の長さを書く問題は、どちらも全国や県の平均を大きく上回った。 ●辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形を書くことができるプログラムを選ぶ問題の本校の正答率は57.8%で、全国の平均より8.7ポイント、県の平均より8.1ポイント低い。隣り合った角の大きさを考慮していない解答が多かった。	・それぞれの図形の特徴や性質について整理したり、実際に作図することを通して、定着を図る。 ・5年生の当該単元の学習において、正多角形だけでなく、ひし形や平行四辺形などの主な図形をかくプログラムを考える機会も設定し、経験値を上げことで定着を図る。
C 変化と関係	●変化と関係の領域においては、すべての問題で全国や県の正答率を下回っていた。 ●伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題の本校の正答率は35.6%で、全国の平均より12.4ポイント、県の平均より10.5ポイント低い。	・比例の関係にあるものの数値の求め方を再確認し、様々な問題を解くことで定着を図っていく。 ・自分の考えを、筋道を立てて分かり易く説明したり式や言葉を用いて記述したりする機会を日常的に設けていく。
D データの活用	○表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求める問題の本校の正答率は75.6%で、全国の平均より0.3ポイント、県の平均より3.5ポイント高い。 ●分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する問題では、全国の平均より3.9ポイント、県の平均より3ポイント、また、目的に応じて円グラフを選択し必要な情報を読みとる問題では、全国の平均より4.6ポイント、県の平均より2ポイント低い。	・円グラフの数値の読み取り方を再度確認し、繰り返し指導していく。 ・問題の意図する内容を正しく読み取る力に課題が見られる。様々な教科で、読み取ったことを自分の言葉で説明する機会を多く設定し、読み取る力の定着を目指していく。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	47.2	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	63.1	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	80.0	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	69.8	66.1	64.6
観点	知識・技能	68.9	65.9	62.5
	思考・判断・表現	64.0	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	●校内正答率は47.2%であり、市の平均より4.5ポイント、全国の平均より4.4ポイント低い。 ●「光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ」設問の正答率は17.8%であり、全国の平均より10ポイント低い。知識に関する問題であるが、複数の条件を関連付けながら、分析し考察する力に課題が見られる。 ●実験結果から、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えを記述する問題に課題が見られる。	・知識を日常生活や他の場面と関連付けて考える力を高めるために、興味・関心がもてる教材や生活と結びつけて考えるように課題の工夫を図っていく。 ・実験結果から、自分の考えをもち、キーワードを利用するなどして表現する機会を日常的に設けていく。
「粒子」を柱とする領域	○校内正答率は63.1%であり、市平均より0.4ポイント低く、全国の平均より2.7ポイント高い。 ○「一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く」設問の正答率は100%で、県の平均より28.5ポイント高いが、「器具の正しい扱い方を見る」設問では、県の平均より7.5ポイント低い。 ●実験結果を基に、自分の考えをもち、その内容を記述する問題に課題が見られる。	・多面的に分析できる力を高めるため、日頃から基本的な技能を身に付けるとともに、問題を追究する活動を多く取り入れていく。 ・実験結果から、自分の考えをもち、キーワードを利用するなどして表現する機会を日常的に設けていく。
「生命」を柱とする領域	○校内正答率は80%であり、県の平均より3.9ポイント、全国の平均より5ポイント高い。 ●見出された問題を基に観察の記録が誰のものかを選ぶ問いでは、正答率は89.1%であるが、全国より3.8ポイント低い。	・何を確認するために実験をしたり観察をしたりするのかを考えて取り組み、問題に合った考察をする経験を積み重ねることで、学習内容を理解したり、表現力を高めたりできるようにしていく。
「地球」を柱とする領域	○校内正答率は69.8%であり、県平均よりも5.1ポイント、国平均よりも5.2ポイント高い。 ●冬の天気と気温の変化について結果から言えることは結果のどこから分析したのかを選ぶことについて、国平均より6.7ポイント高いが、正答率が52.2%ということから課題が見られる。	・観察する体験を積み重ねることで、結果を整理する力、結果から考察する力を育てるとともに、それを説明する活動を取り入れることで学習理解につなげるようにする。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「自分にはよいところがあると思いますか」に対する肯定的な回答は89.2%、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」に対する肯定的な回答は82.6%、「将来の夢や目標を持っていますか」に対する肯定的な回答は84.7%となり、県・全国平均を上回っている。さらに、「学校に行くのは楽しいですか」の肯定的な回答は100%となり、県・全国を大きく上回った。これは、登下校や縦割り班での活動、委員会活動、学校行事等で、児童が様々な場面で高学年としての役割を任される機会を多く設けていることや、それに対して児童一人一人が責任をもって活動に取り組み、協調性や自己肯定感が高められているからだと考えられる。今後も、互いに協力し励まし合いながら活動し、喜びを味わったり達成感を高めたりできるような機会を増やすとともに、児童の活動の様子を教員間で共有し、励ましたりほめたりすることで、困難にも諦めず挑戦し、乗り越えていこうという気持ちをもてるようにしていく。

○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対する肯定的な回答は89.1%で、県・全国の平均を10ポイント以上上回っている。また、「家で学校からの課題でわからないことがあったとき、どのようにしていますか」に対して、「自分で調べる」と回答した児童の割合が84.8%と県・全国の平均を10ポイント以上上回った。家庭学習の取り組み方について学校全体で繰り返し指導してきたことや課題を丁寧に行うことについて各学級で指導してきたことの成果と言える。今後も進んで学習をする姿勢が身に付くよう、日常的に指導していく。

●「放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか」に対して、「家で勉強や読書をしている」と回答した児童が67.4%、「家族と過ごしている」と回答した児童が87.0%で県・全国の平均を上回っている一方、「家でテレビやどうがを見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている」と回答した児童が87.0%と高い傾向にある。家庭での過ごし方や時間の使い方について見直すよう児童に指導すると同時に、保護者会や学年便り等を活用し、家庭でも話合いの機会が設けられるよう啓発していく。

●「新聞を読んでいますか」に対して、「ほとんど、または、全く読まない」と回答した児童が78.3%で、県・全国の平均より約5ポイント高い。「ほぼ毎日読んでいる」と回答した児童は0%、「週に1～3回程度読んでいる」「月に1～3回読んでいる」と回答した児童は、それぞれ10.9%で全体の2割程度しか新聞に触れていないことが分かった。また、「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は69.6%で、県・全国より約3ポイント低く、「当てはまらない」と回答している児童は10.9%となっている。新聞や読書をする事で知識を得たり、それに対する自分の考えをもったりすることで、新たな発見をしたり考えが広がったりする。家庭に啓発することももちろんだが、学校生活の中で新聞に触れる機会を増やしたり、読書の時間の充実を図ることができるよう指導の工夫を図っていく。

宇都宮市立上河内中央小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びを実現する授業研究	「上央小スタンダード」を実践することで、はっきり・じっくり・すっきりを意識した授業を展開する。学習のめあてを児童一人一人に意識させることで主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせたり、考える時間を十分に確保することで考えを深めたり広げたりする力を育成することをねらいとして取り組んでいる。	アンケート結果では、「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に対する肯定的な回答が80%を超えている。県や国の平均を上回っていることから、主体的に学習に取り組んでいる様子が伺える。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して肯定的に回答した児童は95%を超えており、上央小スタンダードを基に学習を積み重ねてきたことが成果として表れている。今後もはっきり、じっくり、すっきり学習過程を大切に授業を行っていく。
基礎・基本の確実な習得	朝の学習の時間を活用して「上央小漢字・算数検定」を実施し、漢字・計算を中心として基礎的な学力の定着を図る。家庭学習の習慣化を目的として、家庭学習チャレンジ週間を年2回実施している。算数の学習では、今年度から習熟度別学習を本格実施し、学力の定着を図っている。	知識・技能の正答率が国語・理科は全国の平均を上回った。算数についてはやや下回っていて、変化と関係の領域では国の平均を大きく下回った。しかし、アンケート結果では、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」や「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」に対する肯定的な回答がどちらも85%を超えている。国の平均も上回っていることから、学習習慣が定着しつつあることが分かる。今回課題になっている領域についての理解を深め、定着を図っていくことで基礎基本の力がさらに伸びていくことを期待したい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
--------------	--------	-----------

思考力・判断力・表現力がほとんどの教科で県の平均を下回っている。特に、記述式の問題で無回答やすべての条件を満たしていない児童が一定数おり、書こうとする意志は感じられるものの、苦手とする児童がいる。また、物語文の読み取りを苦手とする児童が多く、読書の習慣も定着していない。	自分の考えを短い文を使って分かりやすく説明する（書く）力を身に付ける。読書の習慣化を図る。	朝の学習では、文を視写したり条件に合った文を書く学習を行う。また、各教科でも、条件を満たしてまとめたり、友達の考えを聞いて自分の考えを整理して書く活動を取り入れたりして、考える力や表現する力を高めていく。読書の習慣化を図ると同時に、教材文以外の物語文に触れる機会を設ける。
--	--	---